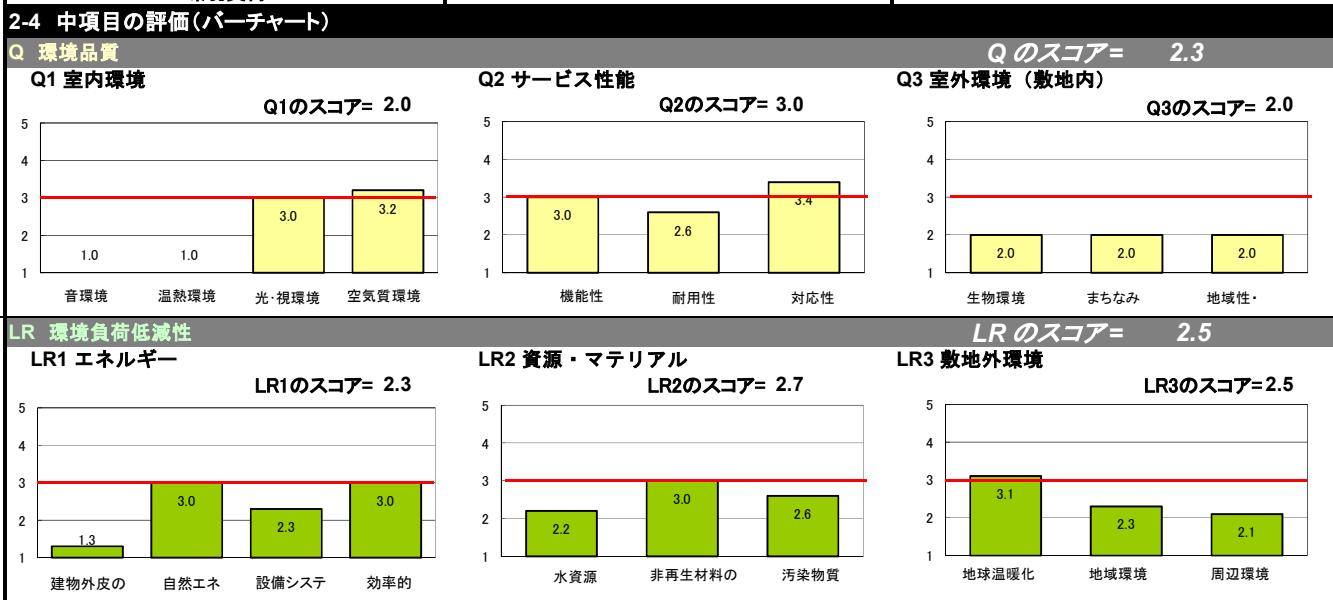
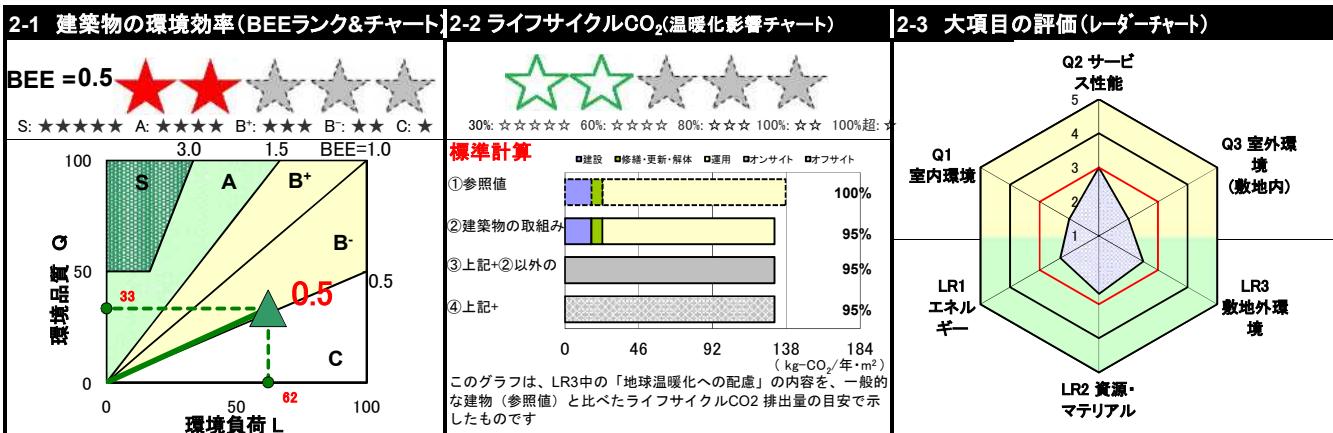


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23019

建築物名称	C'zPRO川崎子母口店
建築主	株式会社カインズ 代表取締役社長 高家 正行
建築物の所在地	川崎市高津区子母口字新田町532、535
設計者氏名、建築士事務所名	岸 裕之 株式会社岸設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,259.40m ²
用途	物品販売業を営む店舗
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了予定年月	令和6年6月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	C'zPRO川崎子母口店	階数	地上2F
建設地	川崎市高津区子母口字新田町532、535	構造	S造
用途地域	準住居地域・第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,000 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年8月28日
敷地面積	1,953 m ²	作成者	株式会社 岸設計 益田
建築面積	1,203 m ²	確認日	2023年8月28日
延床面積	2,259 m ²	確認者	株式会社 岸設計 益田

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフケイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア合計/ 重点項目最高点のスコア合計 (5点満点)	重点項目への貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目		各項目について配慮した内容を記述してください。	
緑の保全・回復(G)		Gの平均点 2.0	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.7/4.3 2.0	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8 2.0	
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点 2.3	
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御		0.4/0.8 2.6	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3 2.0	
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		2.3/5.0 2.3	
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		2.6/4.7 2.8	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8 2.0	
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点 2.8	
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.3/0.5 2.8	
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減		2.2/4.0 2.8	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4 2.4	
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点 2.1	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3 2.0	
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		2.3/5.0 2.3	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8 2.0	

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

2.3

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計 (5点満点)	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)
内訳対応項目		各項目について配慮した内容を記述してください。	
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 車体材料の耐用年数		0.1/0.1 3.0	
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築車体等の継続利用 2.3 車体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2 3.0	
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		2.3/5.0 2.3	

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄				評価点		重み係数		評価点		重み係数		全体
配慮項目		G	W	R	H					評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質																		2.3
Q1 室内環境											0.40							2.0
1 音環境										1.0	0.15							1.0
1.1 室内騒音レベル										1.0	0.40							
1.2 遮音										1.0	0.40							
1.3 開口部遮音性能										1.0	1.00							
2 界壁遮音性能										3.0	-	3.0	-					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										3.0	-	3.0	-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										3.0	-	3.0	-					
1.3 吸音										1.0	0.20	3.0	-					
2 温熱環境										1.0	0.35							1.0
2.1 室温制御										1.0	0.50							
1 室温										1.0	0.50							
2 外皮性能										1.0	0.17							
3 ゾーン別制御性										1.0	0.33							
2.2 湿度制御										1.0	0.20	3.0	-					
2.3 空調方式										1.0	0.30	3.0	-					
3 光・視環境										3.0	0.25							3.0
3.1 昼光利用										3.0	0.50							
1 昼光率										3.0	-	3.0	-					
2 方位別開口										3.0	-	3.0	-					
3 昼光利用設備										3.0	1.00	3.0	-					
3.2 グレア対策										3.0	-	3.0	-					
1 昼光制御										3.0	-	3.0	-					
3.3 照度										3.0	-	3.0	-					
3.4 照明制御										3.0	0.50	3.0	-					
4 空気質環境										3.2	0.25							3.2
4.1 発生源対策										3.0	0.50							
1 化学汚染物質										3.0	1.00	3.0	-					
4.2 換気										3.0	0.30							
1 換気量										3.0	0.50	3.0	-					
2 自然換気性能										3.0	-	3.0	-					
3 取り入れ外気への配慮										3.0	0.50	3.0	-					
4.3 運用管理										4.0	0.20							
1 CO ₂ の監視										3.0	0.50							
2 喫煙の制御										5.0	0.50							
Q2 サービス性能										-	0.30							3.0
1 機能性										3.0	0.40							3.0
1.1 機能性・使いやすさ										3.0	0.40							
1 広さ・収納性										3.0	-	3.0	-					
2 高度情報通信設備対応										3.0	-	3.0	-					
3 パリアフリー計画										3.0	1.00							
1.2 心理性・快適性										3.0	0.30							
1 広さ感・景観										4.0	0.33	3.0	-					
2 リフレッシュスペース										2.0	0.33							
3 内装計画										3.0	0.33	3.0	-					
1.3 維持管理										3.0	0.30							
1 維持管理に配慮した設計										3.0	0.50							
2 維持管理用機能の確保										3.0	0.50							
2 耐用性・信頼性										2.6	0.30							2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振										3.0	0.50							
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										3.0	0.80							
2 免震・制震・制振性能										3.0	0.20							
2.2 部品・部材の耐用年数										2.8	0.30							
1 転体材料の耐用年数										3.0	0.20							
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										2.0	0.20							
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										3.0	0.10							
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										3.0	0.10							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										3.0	0.20							
6 主要設備機器の更新必要間隔										3.0	0.20							
2.4 信頼性										1.6	0.20							
1 空調・換気設備										3.0	0.20							
2 給排水・衛生設備										1.0	0.20							
3 電気設備										1.0	0.20							
4 機械・配管支持方法										1.0	0.20							
5 通信・情報設備										2.0	0.20							

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり			店舗の商品陳列のため高い階高にしていま 鉄骨ラーメン構造で空間を広く確保	3.4	0.30	-	-	3.4	
	1 階高のゆとり				4.6	0.30	-	-		
	2 空間の形状・自由さ				5.0	0.60	3.0	-		
	3.2 荷重のゆとり				4.0	0.40	3.0	-		
	3.3 設備の更新性				3.0	0.30	3.0	-		
	1 空調配管の更新性				3.0	0.40	-	-		
	2 給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-		
	3 電気配線の更新性				3.0	0.20	-	-		
	4 通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-		
	5 設備機器の更新性				3.0	0.10	-	-		
	6 バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-		
	3.0	0.20	-		3.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30	-	-	2.0	
1 生物環境の保全と創出	G	W	H	-	-	2.0	0.30	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮	G			-	-	2.0	0.40	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				-	-	2.0	0.30	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				-	-	2.0	0.50	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W	H	-	-	2.0	0.50	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR1 エネルギー										
1 建物外皮の熱負荷抑制		W	H	-	-	0.40	-	-	2.5	
2 自然エネルギー利用		W	H	-	-	1.3	0.20	-	2.3	
3 設備システムの高効率化		W	H	-	-	3.0	0.10	-		
4 効率的運用				-	-	2.3	0.50	-	3.0	
集合住宅以外の評価				-	-	3.0	0.20	-		
4.1 モニタリング		W	H	-	-	3.0	1.00	-		
4.2 運用管理体制		W	H	-	-	3.0	0.50	-		
集合住宅の評価				-	-	3.0	0.50	-		
4.1 モニタリング		W	H	-	-	3.0	-	-		
4.2 運用管理体制		W	H	-	-	3.0	-	-		
LR2 資源・マテリアル										
1 水資源保護										
1.1 節水		W	R	-	-	0.30	-	-	2.7	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				-	-	2.2	0.20	-	2.2	
1 雨水利用システム導入の有無				-	-	1.0	0.40	-		
2 雜排水等利用システム導入の有無				-	-	3.0	0.60	-		
2 非再生性資源の使用量削減				-	-	3.0	0.70	-		
2.1 材料使用量の削減		W	R	-	-	3.0	0.30	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R	-	-	3.0	0.60	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R	-	-	3.0	0.20	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R	-	-	3.0	0.20	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R	-	-	3.0	0.10	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R	-	-	3.0	0.20	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				-	-	3.0	0.60	-	3.0	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				-	-	2.6	0.20	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	3.0	0.30	-		
1 消火剤		W		-	-	2.5	0.70	-		
2 発泡剤(断熱材等)		W		-	-	-	-	-		
3 冷媒		W		-	-	2.0	0.50	-		
3.05	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	
LR3 敷地外環境										
1 地球温暖化への配慮										
1 地域環境への配慮		W		CO2を削減しました。	-	0.30	-	-	2.5	
2.1 大気汚染防止				-	-	3.1	0.33	-	3.1	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W	H	-	2.3	0.33	-	2.3	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				-	-	3.0	0.25	-		
1 雨水排水負荷低減				-	-	2.0	0.50	-		
2 汚水処理負荷抑制				-	-	2.2	0.25	-		
3 交通負荷抑制				-	-	3.0	0.25	-		
4 廃棄物処理負荷抑制				-	-	3.0	0.25	-		
3.1 来店客の利便性を考慮し駐車台数を設定				-	-	2.0	0.25	-		
3.2 駐車台数				-	-	1.0	0.25	-		
3.3 駐車台数				-	-	2.1	0.33	-	2.1	
3.1 駐車台数				-	-	3.0	0.40	-		
3.2 駐車台数				-	-	3.0	0.33	-		
3.3 駐車台数				-	-	3.0	0.33	-		
3.4 駐車台数				-	-	1.6	0.40	-		
3.5 駐車台数				-	-	1.0	0.70	-		
3.6 駐車台数				-	-	3.0	0.30	-		
3.7 駐車台数				-	-	1.6	0.20	-		
3.8 駐車台数				-	-	1.0	0.70	-		
3.9 駐車台数				-	-	3.0	0.30	-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画															
1.3.1 維持管理に配慮した設計	2.0	2.0		○	○	-	-	○	-	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	5.0		○	○	-	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 敷地内環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	1.0	1.0	-	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	2.0		1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	1.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 転体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	2.0		1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC -	窓の日射熱取得率(η) -	外壁 -	床 -
U値(W/m ² K) 窓システム -	屋根 -	外皮UA値 -	η AC - η AH -

3.1.1 昼光率

昼光率 1.5%

自然換気有効開口面積 3.3%

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース 6.0m² /人 病床 8.0m² /床 シングル 15.0m² ツイン 22.0m²

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 30.0 VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 2.5 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.5% レストスペース 2.0%

2.2.1 転体材料の耐用年数

想定耐用年数 25 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 20 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 4.22 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 13.0%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 4000 N/m²**Q3 敷地外環境(敷地内)**

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指標 31% 建物緑化指標 5%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 38% 水平投影面積率 11% 地表面対策面積率 15% 補装面積率 26%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 1.02 斜面等性能等級 等級2 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年m² 採光を満たす教室数 80.0% 採光を満たす住戸数 80.0%

3 設備システムの高効率化

通風を満たす教室数 80.0% 通風を満たす住戸数 80.0%

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

BPI/BPI_m 非住宅 0.94 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW

2.4 転体材料以外におけるリサイクル材の使用

雨水利用率 0.0%

2.5 持続可能な森林から産出された木材

特定調達品目 - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

3.2.1 消火剤

使用比率 5.0%

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数((地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数((地球温暖化係数(GWP) 1430

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

オゾン層破壊係数((地球温暖化係数(GWP) 8

見付面積比 88% 棟間隔指標Rw -	地表面対策面積率 26.0% 屋根表面対策面積率 #DIV/0! 外壁表面対策面積率 0.0%
見付面積Sb 500m ² 越風向と直交する最大敷地幅Ws 34 m 基準高さHb 16.58 m	緑地 103m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²